

中国四国教育学会第 71 回大会報告

中国四国教育学会事務局

〒739-8524 東広島市鏡山 1-1-1

広島大学大学院教育学研究科教育学講座内

cssse@hiroshima-u.ac.jp

11月30日(土)、12月1日(日)の両日、愛媛県松山大学で中国四国教育学会第71回大会を開催することができました。ご参加いただいた多くの会員の皆さまに御礼を申し上げるとともに、会場校をお引き受けいただいた松山大学、溝上達也学長、同、作田良三大会実行委員会委員長、愛媛大学、青井倫子副委員長をはじめ、開催を支えていただいた実行委員会の先生方に深甚の感謝を申し上げます。

今年度の大会は、松山大学と隣接する愛媛大学とが連携協力いただいて開催するというこれまでになかった新しい形の大会になりました。実行委員会も合同で組織され、松山大学から4人、愛媛大学から6人の委員が参加されました。昨今の大学の多忙状況から、学会大会を引き受けることに躊躇する大学もあるなか、私たちの学会にとって新しい可能性を示していただいたものと感謝しています。また、大会実行委員会の積極的ご協力により、従来事務局で担当していた発表部会の編成、プログラムの作成も実行委員会にお引き受けいただき、事務局としてはこれもまた大いに感謝するところです。

大会では、26の自由研究発表部会が編成され158件の発表がありました。また大会校企画の公開シンポジウムと学会課題研究成果報告のラウンドテーブル、日本教育学会との共同企画である国際公開フォーラムもあわせて実施され、2日間で正会員229人、臨時会員37人と多くの参加者をえて盛大な研究大会となりました。公開シンポジウムは、「道德教育の改善と評価」をテーマとして論議が展開されました。太田佳光会員(愛媛大学)と杉田浩崇会員(広島大学)のコーディネートにより、シンポジストとして上地完治会員(琉球大学)、坂井親治氏(元西条市立河北中学校長)、谷田増幸氏(兵庫教育大学)にご提案をいただき、中身の濃い研究討議が展開されました。愛媛県内小中学校で道德教育に取り組んでおられる多くの先生方にもご参加いただき、理論と実践を架橋し地域の教育課題に応える地方学会の役割が果たせたのではないかと考えています。

大会第1日目に開催された総会では、先般実施された会長選挙の結果が報告され、深澤広明会員(広島大学)が次期会長となることが承認されました。その他、通常の会務報告、会計報告等があり、それぞれ了承、承認されました。編集委員会からは、『教育学研究ジャーナル』の事務的作業部分を業者委託にしたこと、それによって委員会(特に編集幹事)の仕事がかなり縮減されて持続可能な学会運営に近づいたことが報告されました。なお次年度2020年第72回大会は、広島大学を会場として教育学講座の主担当で開催されることも承認されました。

中国四国教育学会会長としての1期3年の任期がゴールに近づきました。十分なお役には立てませんでしたが、会員の皆様のご協力のおかげで大きな問題なく次期に引き継ぎができそうです。また学会運営の柱となって支えていただいた鈴木理恵事務局長、歴代の幹事、班婷さん、張磊さん、岡村美由規さん、八橋有加さんにはこの場をお借りして感謝申し上げます。学会の益々の発展を祈っています。

【会長・坂越正樹】

○自由研究発表・公開シンポジウム・ラウンドテーブル

大会 2 日間を通して、計 26 部会で 158 件（取り消し 5 件を除く）の自由研究発表が行われ、各部会において活発な議論が交わされました。そのうち 3 件は、本学会が助成している「課題研究」の成果発表でした。

大会 1 日目の午後に設けられた公開シンポジウムは、142 名の参加者がありました。司会の杉田浩崇氏（広島大学）により趣旨説明がなされた後、シンポジストである上地完治氏（琉球大学）、坂井親治氏（元西条市立河北中学校長）、谷田増幸氏（兵庫教育大学）より、「話し合いを中心とした授業における教科書の活用」（上地氏）、「道徳授業における指導と評価の一体化」（坂井氏）、「授業改善における理論と実践の往還」（谷田氏）をテーマに発表がなされました。

大会 2 日目の午後には、公開フォーラムと 1 件のラウンドテーブルが開催されました。公開フォーラムでは、提案者として姜添輝氏（鄭州大学）、梁忠銘氏（台東大学）、白松賢氏（愛媛大学）をお招きして、「How do underachieving working class students survive in the classroom? – Critiques on the perspective of resistance –」（姜氏）、「台湾における教師教育と地域学校の問題」（梁氏）、「日本の少子高齢化エリアの教師の仕事と生活一問題のリアリティー構成に着目して—」（白松氏）をテーマに発表をいただきました。その後、指定討論者である山田浩之氏（広島大学）よりコメントをいただきました。公開フォーラムの参加者は 38 名であり、言語の壁を越えて活発な議論が行われました。

ラウンドテーブルにおいて、「課題研究」の成果が発表されました。テーマは「幼児教育における経験の評価をとらえなおす」であり、17 名の参加者がありました。

○理事会・総会報告

理事会は、大会前日の 11 月 29 日（金）18 時から松山大学東本館 7F の会議室三において開催され、役員 9 名と事務局幹事 2 名が出席し、総会に提出する事項についての審議等が行われました。

総会は、大会 1 日目に、松山大学樋又キャンパス H2A 教室で開催されました。松山大学学長溝上達也先生よりご挨拶をいただいた後、議長団（川口仁志氏＜松山大学＞、小川佳万氏＜広島大学＞）による進行のもと、事務局から各種報告が行われました。続いて 2018 年度決算報告・会計監査報告、2019 年度予算案・中間決算報告、次年度大会校、副会長の改選についての審議がなされ、全て原案通りに承認されました。総会の進行は以下のとおりです。

中国四国教育学会・総会

1. 開会の辞	(事務局 長)	鈴木 理恵)
2. 会長挨拶	(会 長)	坂越 正樹)
3. 大会校挨拶	(学 長)	溝上 達也)
4. 議長団選出	(事務局 長)	鈴木 理恵)
5. 報告事項		
(1) 事業・会議報告	(事務局 長)	鈴木 理恵)
(2) 研究推進事業報告	(事務局 長)	鈴木 理恵)
(3) 編集委員会報告	(編集委員長)	永田 良太)
(4) 会長選挙結果報告	(会 長)	坂越 正樹)
(5) 新会長挨拶		
6. 審議事項		
(1) 2018 年度決算報告	(事務局 幹事)	八橋 有加)
(2) 2018 年度会計監査報告	(監 査)	白石 崇人)
(3) 2019 年度予算・中間決算報告	(事務局 幹事)	八橋 有加)
(4) 次年度大会開催校および副会長・役員 の改選について	(会 長)	坂越 正樹)
(5) その他		
7. 議長団解任	(事務局 長)	鈴木 理恵)
8. 閉会の辞	(事務局 長)	鈴木 理恵)

○次年度大会のお知らせ

次年度の第 72 回大会は、令和 2 年 11 月 21 日（土）・22 日（日）に広島大学を会場として開催される予定です。会員の皆様のご参加をお待ちしております。

2018 年度決算報告

《収入》

2018年4月1日～2019年3月 31 日

項目	予算	決算	決算-予算
前年度繰越金	7,616,371	7,616,371	0
学会費	3,510,000	3,930,000	420,000
内訳：2018年度（5,000円）	584名： 2,920,000	601名： 3,005,000	85,000
2019年度以降（5,000円）	10名： 50,000	113名： 565,000	515,000
過年度（5,000円）	108名： 540,000	72名： 360,000	▲ 180,000
『教育学研究紀要』（CD-ROM版）掲載費	570,000	565,000	▲ 5,000
内訳：個人研究（5,000円）	102件： 510,000	98件： 490,000	▲ 20,000
共同研究（5,000円）	12件： 60,000	15件： 75,000	15,000
その他収入	6,470	14,666	8,196
内訳：預金利子	70	26	▲ 44
CD-ROM・ジャーナル売上	6,400	14,640	8,240
収入合計	11,702,841	12,126,037	423,196
純収入（繰越金除く）	4,086,470	4,509,666	

《支出》

項目	予算	決算	予算-決算
第70回大会経費	830,000	538,882	291,118
内訳：会場校補助金	260,000	260,000	0
会場使用料	150,000	0	150,000
プログラム印刷費	250,000	108,324	141,676
シンポジウム要旨集印刷費	70,000	32,400	37,600
会議費	100,000	138,158	▲ 38,158
『教育学研究ジャーナル』刊行費	1,212,140	903,982	308,158
内訳：印刷・J-STAGE登載経費	690,000	663,509	26,491
会議費	472,140	174,578	297,562
編集作業人件費	50,000	65,895	▲ 15,895
『教育学研究紀要』（CD-ROM版）刊行費	471,000	411,272	59,728
内訳：CD-ROM制作費	360,000	359,092	908
冊子体制作費	11,000	6,180	4,820
編集・校正作業人件費	100,000	46,000	54,000
研究推進費	850,000	800,000	50,000
内訳：「課題研究」助成金（200,000円/件）	4件： 800,000	4件： 800,000	0
ラウンドテーブル・会議費	50,000	0	50,000
事務局会議費（理事会、事務局会議等）	152,640	38,107	114,533
事務局旅費	65,420	28,170	37,250
封筒印刷費	60,000	117,720	▲ 57,720
通信発送費	350,000	318,892	31,108
振込手数料負担金	70,000	64,258	5,742
事務局人件費	1,334,050	892,598	441,452
消耗品費	120,000	92,842	27,158
予備費（銀行振込手数料・労災保険料等）	50,000	8,615	41,385
支出合計	5,565,250	4,215,338	1,349,912

【次年度繰越金】

収入－支出 ＝ 12,126,037 - 4,215,338 = 7,910,699

純収入－純支出＝4,509,666 - 4,215,338＝ 294,328

寄 贈 図 書

(2018.12.01～2019.11.30)

○図書

- ・白銀 夏樹『アドルノの教育思想—「アウシュヴィッツ以後」の啓蒙—』関西学院大学出版会、2019年10月18日

○紀要・ニュースレターなど

- ・『文 MON NEXT』第117号、公文教育研究会、2019年1月31日
- ・『京都教育大学大学院連合教職実践研究科年報』第8号、京都教育大学大学院連合教職実践研究科、2019年3月
- ・『教育雑誌』第55号、日本大学教育学会、2019年3月25日
- ・『中部教育学会紀要』第19号、中部教育学会、2019年6月30日
- ・『文 MON NEXT』第118号、公文教育研究会、2019年7月31日
- ・『関西教育学会研究紀要』第19号、関西教育学会、2019年8月31日